

多機能型（就労B型・生活介護） 通所施設

## わたげの家



岐阜県八百津町八百津3393-2  
通所定員 35名(就労B型15名 生活介護20名)

平成18年にスタートした通所施設です。八百津町を中心に障がいをもった方が通っており、毎日作業をしています。

クリーニングや下請け作業から、果栽培まで作業内容は多岐にわたります。

利用希望者の増加に伴い平成26年度には増築をして定員を増やしています。

生活介護 通所施設

## きらら美濃加茂



岐阜県美濃加茂市西町7-182-1  
通所定員 20名

平成28年4月にスタートしました。現在、主に美濃加茂市から障がいをもった方が通い、毎日作業をしています。さをり織り、ペーパークラフトなどを中心に、本人の状況に合わせた作業を行っています。また、ジェラートを製造し、同敷地内にある店舗で利用者自身が販売をしています。どうぞお立ち寄りください。



障がい者相談支援センター

## まごころ

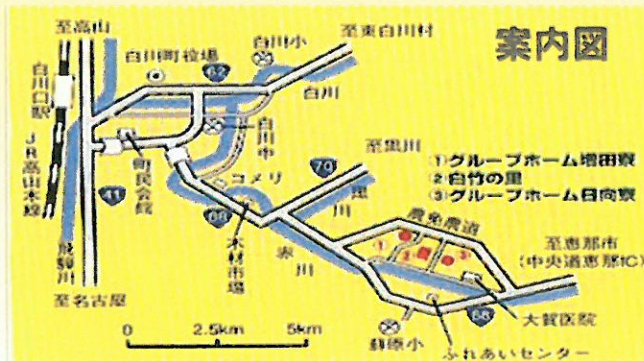
福祉サービスを受けるための相談窓口

でんわ 0574(73)1311

「まごころ」では障がいをもった方、またはその家族からの相談を受け、相談支援専門員が本人の状況に合わせた福祉サービスの利用計画を立てています。障害をもった方が地域で生活していくための情報提供や、関係機関の紹介、社会資源の活用など、本人像を捉えながらトータル的に計画を立案しています。

法人の職種別職員数

職種別	職員数 (R3.4.1現在)		
	常勤職員	非常勤職員	計
施設長・管理者	4人(兼務4)		4人(兼務4)
サービス管理責任者	4人(兼務4)		4人(兼務4)
相談支援専門員	1人	1人	2人
生活支援員	38人(兼務4)	12人(兼務1)	50人(兼務5)
職業指導員	1人	2人(兼務1)	3人(兼務1)
保健師・看護師	2人	2人	4人
管理栄養士	1人		1人
調理員	4人	5人	9人
世話人		9人	9人
運転手	3人(兼務3)	3人(兼務1)	6人(兼務4)
事務長・事務員	3人	1人	4人
計	61人	35人	96人 (実87人)



岐阜県加茂郡白川町赤河1454-2  
0574(73)1311

白竹の里

それぞれの  
ステージにあった

生き方を大切に

支援します

社会福祉法人 清流会

障がい者支援施設 白竹の里

就労B型 通所施設 第二白竹の里

多機能型施設 わたげの家

生活介護 通所施設 きらら美濃加茂

相談支援事業 まごころ

## 法人設立の想い

すべての人の人格尊重を第一義に  
利用者には生きがいと喜びを  
家族には希望と安心を

## 法人理念

1 障がい者が、  
一生成長し続けられる  
場であること。

2 障がい者が、  
安心して安定して  
生きられる  
場であること。

地域に密着し、  
開放された  
場であること。

### 法人理念

障がい者が、  
働くことを通して  
生きる喜びを  
体感し得る  
場であること。

3 障がい者が、  
自ら助け合える  
場であること。

5

4

## 沿革

- 平成2年 4月 白川町心身障害者小規模授産所「白竹作業所」開所
- 平成10年 6月 社会福祉法人「清流会」設立
- 平成11年 5月 知的障害者更生施設「第一白竹の里」及び知的障害者授産施設「第二白竹の里」開所
- 平成14年12月 グループホーム増田寮開所
- 平成15年 4月 グループホーム日向寮開所
- 平成18年 4月 第二白竹の里「分場わたげの家」開所
- 平成22年 4月 グループホーム「ホーム八百津」開所
- 平成23年 4月 第一白竹の里が障がい者支援施設「白竹の里」に、分場わたげの家が「多機能型事業所」に移行
- 平成24年 4月 第二白竹の里が就労継続支援B型に移行
- 平成25年 4月 障がい者相談支援センター「まごころ」開設
- 平成26年 3月 白竹の里に介護棟「ひなた」が完成
- 平成27年 3月 わたげの家を増築
- 平成28年 4月 生活介護事業所「きらら美濃加茂」開所
- 平成29年 4月 わたげの家に喫茶店を整備し営業開始
- 9月 きらら美濃加茂ジェラート製造開始と同時に営業開始
- 令和元年 12月 白竹の里重度棟等を改修



## 障がい者支援施設 入所

# 白竹の里



岐阜県加茂郡白川町赤河1454-2  
入所定員 58名(うち介護棟8名)

## 見取り図



建物は10名単位の「家」が5つある小舎制の造りとなっています。それぞれの家に風呂、リビング、キッチン等家族として生活できる設備が整っています。利用者のみなさんはここで、職員による支援を受けながら、昼間は作業を、夜間は共同生活をしています。ひとつの家が家族であり、お互いを大切に、支えながら毎日過ごしています。

## ひなた（介護棟）

利用者の高齢化に対応するため、高齢者施設と同等の機能を備えた「家」を整備しました。24時間換気システムや機械浴なども装備して快適な環境になっています。

ひなた棟の完成に伴い、障がいを持つ方の学齢後から終末期までトータル的に支援をすることができるようになりました。



平成26年4月スタート

## 障がい者就労継続支援B型施設 通所

# 第二白竹の里



通所定員 20名

自宅やグループホームから障がいを持った方が送迎バスで通っています。自立に向けて少しでも成長できるように仕事をしています。

## 療育を中心とした支援

## 全事業共通

日中活動は事業の種別を問わず、支援の中心に作業活動をおきます。ただし、それが目的ではなく療育の手段として位置づけます。そのため、作業はつぎのことを基本にします。

- 1 適性や能力に合った作業で、働くことに喜びや充足感をもてること。
- 2 人との関わりを通して適応力、社会生活能力の伸長につながる。

全ての利用者が働くことによって、その人らしい自己実現を図るための手がかりとなるよう支援します。

## 共同生活援助

法人内に3つのグループホームがあり、より自立した生活をしています。



白川町 増田寮 (男性4名)



八百津町 ホーム八百津 (男性3名+女性3名)



白川町 日向寮 (女性4名)